

第三十一回 帝國議會 議院 戶籍法改正法律案外三件

(明治三十八年法律第六十二號中改正法律案
明治四十三年法律第三十九號中改正法律案)

委員會議錄(速記)第二回

(一四九)

大正三年二月二十六日午前十時三十七分開議

出席委員左ノ如シ

長島 築太郎君	麓 純義君	島田 俊雄君
熊谷 直太君	工藤 吉次君	石黒 鎧君
光森 德治君	早川 六三郎君	吉原 正隆君
荒川 五郎君	齋藤 隆夫君	野村 嘉六君
加瀬 祺逸君	大口 喜六君	

出席政府委員左ノ如シ

司法次官法學博士 小山 溫君	司法省法務局 鈴木喜三郎君
委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ	司法院參事官 山内確三郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

戸籍法改正法律案

○委員長(長島築太郎君) ソレデハ戸籍法改正法律案其他三件ノ委員會ヲ開キマス、不肖此席ヲ汚シマス

○鳥田俊雄君 此改正法律案ハ現行ノ戸籍法ヲ根本的ニ改ムル主意アリマシテ、餘程重大ナル關係ヲ含シ居ルト考ヘマスガ、此提出ニ當リマシテ本會議ニ於テ政府委員ノ御説明ニナリマシタコトハ頗ル簡単アリマシテ、大體ノコトニ止マツテ居ルヤウデアリマス、素ヨリ是ハ本委員會ニ於テ十分ナル御説明アルコトデアリ、又其御積リテ省略ヲセラレタコト、考ヘテ居リマスガ、今日ハ何レ御説明ニナルアリマセウガ、御説明ニナリマスニ付テ私ハ二ノ希望ヲ申上ダテ置キタイト思フニアリマス、其一ハ大體ニ於テ此改正ノ理由ト申シマスルカ、改正ニナルニ付テノ沿革、ソレカラ現行法ヲ改正スルニ付テ特ニ必要ナル條項トセラレタ點、即チ現行法モ施行以來マダ餘り多ク年ヲ経シテ居リマセヌガ、ソレヲ改正スルト云フコトニナリマスニ付テハ、現行法制定當時ニ於テ豫期セラレタコトシタイト思ヒマス

○島田俊雄君 モウ一言私ハ説明ヲ願フコトニ附加ヘテ置キタイト思ヒマス、是ハ承リマストコロニ依リマスト、此改正案ハ隨分御提出ニナリマス前二餘程御研究ニナツテ居ルヤウニ聞イテ居リマスデ、大體ノ條文ニ付テノ文章トカ云フヤウナモノニ付テハ、多クノ點ニ付テ委員ノ諸君ニモ議論ノアルトコロガアリマセウケレドモ、承認スルトコロハ直チニ承認セラレルコトデアラウト思ヒマス、唯今熊谷君カラ御話ニナリマシタ三十一年ニ出來タ法律ヲノモノ反シタ結果ヲ生シタヤウナコトモアルニ達セナイト思フニアリマス、ソレ等ノ點ニ付テ、例ヘバ身分登記簿ノ如キ相當ノモノヲ現行法ヲ制定セラレルトキニ於テハ、ソレガ極メテ良イ制度アルト云フ御考テ制定ニナツタモノニアラウト思ヒマスガ、其事が此改正法ニ於テハ制度が全然廢メラレル、其制度が廢メラレルト云フコトニナツテ居ルト云フヤウナ點ハ、特別ニ御説明ヲ願ヒタイト思フニアリマス、其外大體ニ於テ改正ノ理由、サウシテ第二ニ新舊法ヲ對照セラレテ、サウシテ此改正ノ要點々々ニ付テ出來ルダケ詳細ナル説明、例ヘバソレガ取扱ノ上ニ及ボス便不便等ニ付テ、御所見等ヲ成ルベク詳シク致シテ置カナケレバ、此法律案ノ各條項等ニ付テノ趣意等モ飲込メナイ點ガ澤山ニ

アルデアラウト思フ、其秩序立ツタ説明ヲ聞ケバ、サウ云フヤウナコトハ自然氷解スル點モアラウト思ヒマス、旁々最初ニ政府委員カラ大體的ノ竝ニ箇條的ノ極ク詳細ナル説明ヲ長クテモ構ヒマセヌカラ、十分ニ満足ト思ハレルダケノ説明ヲ願ヒタイト思フノアリマス

○熊谷直太君 唯今島田君竝ニ今モウ一名ノ方ノ御希望モアリマシタガ、私モソレニ附加ヘテ斯ウ云フコトヲ御説明ヲ願シテ置キタイト思フ、ソレハ現行戸籍法ハ三十一年六月ニ制定セラレタモノデ、四十年多少ノ改正ガアリマシタケレドモ、結局根本法ト云フモノハ三十一年六月ニアル、ソレカラ現行法ヲ實施シ來リマシテ、戸籍吏ハ現行法ニ於テハ餘程熟練シテ來タモノト思フ、ソレ等ヲ改正スルニ付テハ事務ノ上ニ於テ支障ガナキヤ否ヤ、斯ウ云フ點モ合セテ御説明ヲ願シテ置キタイト思フ

○委員長(長島築太郎君) チヨット政府委員ノ御答辯前ニ御詰リシテ置キタイ、一體戸籍法ハ隨分澤山ノ條文ノ法律アリマス、言ハバ大法典アリマスカラ、大臣ノ御出席ヲ願シテ一應説明ヲ承ルト云フコトハ順序グラウト思ヒマスケレドモ、是ハ重ニ専門ノコトニ屬シマスカラ、必要ノ場合ニ大臣ノ御出席ヲ願シテ、先づ政府委員ニ承ルコトニシタイト思ヒマス

○島田俊雄君 モウ一言私ハ説明ヲ願フコトニ附加ヘテ置キタイト思ヒマス、是ハ承リマストコロニ依リマスト、此改正案ハ隨分御提出ニナリマス前二餘程御研究ニナツテ居ルヤウニ聞イテ居リマスデ、大體ノ條文ニ付テノ文章トカ云フヤウナモノニ付テハ、多クノ點ニ付テ委員ノ諸君ニモ議論ノアルトコロガアリマセウケレドモ、承認スルトコロハ直チニ承認セラレルコトデアラウト思ヒマス、唯今熊谷君カラ御話ニナリマシタ三十一年ニ出來タ法律ヲ、其時ニハ隨分新シ法律ノヤウニ吹聴サレテ出來タモノガ、又茲デコロット根本的ニ變ルト云フコトハ、日本ノ全體ノ立法ノ仕事ノ上ニ於テ一ノ弊害トモ云フベク、朝令暮改ト云フ程デナイカ知ランガ、稍クスウ云フ大法典コロクト引繰リ返スト云フコトハ、隨分大きニ問題デアリマスカラ、是等ニ付テハ唯内國ノ立法府ニ向シテ説明スルト云フ意味バカリデナク、眞ノ立法事業ト云フ上カラ、斯ノ如ク根本的改正ヲ十年ナラズシテ行フト云フコトニ付テハ、餘程重大ナル理由ヲ含シ居ルモノトシナケレバナラヌ、サウ云フヤウナ點ニ付テモ、唯立法府内國ノ關係ダケニ付テ説明スルト云フ意味デナク、餘程

廣キ立場カラ殊ニ政府委員ハソレード専門ノ大家デアリマスカラ、サウ云ウ點ニ付テ他ノ外國ノ法制ナドニ對シテモ遙色ノナイ御満足ノ出來ルヤウナ意味ニ於テ吾ミニ説明ヲシテ頂キタイト云フコトヲ一言附加ヘテ置キマス

○委員長（長島鷲太郎君）尙ホチヨット申上ゲテ置キマスガ、實ハ政府カラ種々参考書ヲ頂ク積リテアリマシタトコロガ、唯今御手許ニ御廻シシタ戸籍法及戸籍法改正法律案條文對照ト云フノハ、十八名ノ委員ニ御廻シスルコトが出來ルノアリマスガ、戸籍法中改正法律案參考書ト云フノハ此處ニ四部シカナ、是ハ活版刷ニナシテ居ツテ、司法省ニナインデアリマス、是ハ委員ノ御方ニ御取調ベアルナラバ隨時御覽ヲ願ヒタウゴザイマス、ソレカラ寄留ニ關スル参考法令ト云フノガアリマスガ、是ハ九部シカナインノアリマス、十八名ノ委員ニハ全部御廻シ出來ヌノアリマス、是ハ司法省ニ御掛合シテ四日中ニ印刷シテ配付スルコトニシマス、ソレマテ御覽置キヲ願ヒマス

ス、ホンノ大體ダケデゴザイマス、私カラ申上ゲマスノハ——改正法律案ヲ御覽ニナリマ
スト、丸デ變ジタヤウニ御覽ニナリマスガ、實際ニ於ケル趣旨ハ丸デ變シテ居ル所ハサウ多
クハナイ、デアリマス、丸デ變ルヤウニナシテ、全法律ヲ改正シナカレバナラヌヤウニナリマシ
タノハ、何レモ條數ガ——大抵ハ條數ガ變ラナケレバナラヌノデアリマス、條數ヲ繰上げ
タリ繰下ケタリ、挿入シタリ致シマシテ、サツバリ分ラナイ法律が出來タト云フ事カラ全體
ニ瓦ツタコトニナシタノデゴザイマスガ、其實ハ趣意カラ申シマスルト、皆改正シタ譯デナイン
デゴザイマス、大體申上ゲマスルト、本會デモ申上ゲタ通り、改正致シマシタノハ身分登
記簿ヲ廢シマスルコトが主モナルコトデ、身分登記簿ヲ廢シマスルト殆ド全部ニ瓦ルコト
ニナルノデアリマスガ、御承知ノ通り現今ノ戸籍法ハ身分登記簿ト戸籍簿ト二ツ分レ
テ居リマシテ、出生婚姻死亡等ヲ皆届出ニ依リマシテ身分登記簿ニ記載致シマス、出
生ナリ婚姻ナリヲ記載致シマシテ、サウシテ戸籍簿ニ寫スコトニナシテ居リマス、同ジコト
ヲ二度二ツノ帳簿ニ記載スルト云フコトニナシテ居リマス、此身分登記ノ方ハ、御承知
ノ通り婚姻ナラ婚姻出生ナラ出生ト云フヤウニ分ケマスルノデゴザイマスガ、家每ニ分ケ
テナインデゴザイマス、又家每ニ分ケルヤウナ性質ニ出來テ居ラナイ、ソコニ分ケテモ是ハ
婚姻デゴザイマスレバ身分登記簿ニ登記シテモ宜イノデゴザイマスカラ、婚姻ノ部類ニ突
込シテ參ルノデゴザイマス、ソレデゴザイマスカラ或婚姻ガ成立シテ居ルヤト云フコトヲ
身分登記簿ニ依ツテ見ヤウト思ツテモ餘程ムカシノデアリマス、ソレデ現今ニ於キマシ
テモ身分登記簿ノ利用ト云フコトハ殆ド出來テ居ラナイノデアッテ、是ハ裁判所ニ關係
ノアル諸君ハ能ク御承知ノ事デアリマスガ、身分ノ事ヲ裁判所が證明致シマスニ身分登
記簿ノ臉本デ證明スルト云フコトハ殆ドナイ、皆戸籍簿ノ臉本ヲ持テ來ル身分登記
簿カラ記載セラレマシタ戸籍簿ノ方ヲ持ツテ來ル、戸籍簿ハ家每ニ出來ア居ル、日本ノ
家族主義ニ能ク合スルヤウニ戸主ヲ本トシテ出來テ居リマス、ソレデアリマスカラシテ、其
現行デハ永久保存トナシテ居リマス、保存ヲ致サナケレバナラヌノデアルカラシテ、其帳簿ヲ
處ノ家ニハドレダケノ人間が居ツテ、ドウ云フ身分關係ヲ有ツテ居ルカト云フコトガソレサ
ヘ見レバ分ル、斯ウ云フコトニナシテ居リマスカラシテ、戸籍簿ヲ利用致シテ居リマスルノ
デ身分登記簿ハ殆ド利用致シテ居リマセヌ、ソレデアリマスノニ身分登記簿ノ方モ是ハ
二様ニ作ルノミナラズ、二様ニ付ケテ帳簿ヲ保存スルコトニナシテ居リマス、皆登記簿ノ
タメニ、戸籍役場——現今デ申シマス、戸籍役場竝ニ裁判所ト云フモノハ倉庫ニ不足
ヲ感シテ居リマシテ、是ガタメニ年々倉庫ヲ建増サナケレバナラヌト云フヤウナコトニナル

ニデゴザイマス、昨年中ノ身分登記簿が東京ダケデ其厚サガ慥カ五十二間程ニナルト思ヒマス、ソレハ厚サゴザイマス、是ハ裁判所ノ方デチヨット見タノデゴザイマスガ、戸籍役場ノ方モ大分困ルト云フヤウナ話デ、サウシテ前申上ゲマスル通リソレヲ引出シテ何年先婚姻ガアルト云フコトハ殆ドソレヲ引出シ得ナイト云フ次第ニナツテ居リマス、又昨年以來行政整理事務簡捷ト云フコトニ努メシタ結果ノ一ツトシテ、是ハ廢止シタ方が宜イ、斯ウ云フ議が起ツタノデアリマス、サウシテ又身分登記簿ニ記載セラ居リマスガ、身分登記簿ニ記載シテアリ戸籍簿ニ記載ハナリ、例ヘバ胎内ニ於ケル私生兒ノ認知ト云フヤウナモノハ、今デハ戸籍簿ニ記載セズニ身分登記簿ダケニ記載シテアリマス、サウ云フ風ニ僅デゴザイマスカラ、其身分登記簿ニノミアツテ戸籍簿ニナイ事項ニ付テ戸籍簿ニ記載スルヤウニスレバ、身分登記簿ヲ廢シテモ、一向仔細ナイ事デアラウ、斯ウ認メマシテ、事務ハ簡捷ニナリマスルシ、經濟上デゴザイマスルシ、身分登記簿ヲ廢メルコトニ致シタノデアリマス、サウシテ廢シマスルニ付テハ、經費が幾ラ除ケルカリマスガ、ソレガ要ラナクシテ、ソレハ帳簿ノ作製ト帳簿ノ運搬ダケノ費用デゴザイマス、重複記載ノ爲ニ手數ヲ要シ、市町村ノ戸籍役場ノ方デ吏員ヲ要シマスルノガドレダケト云フヤウナコトハ、是ハ計算が出來マセヌノデゴザイマスガ、市町村ノ費用ト云フモノハ大分減ズルト思フノアリマス、サウ云フコトガ身分登記簿ヲ廢止スルト云フコトニ致シマシタ主モナル事デ、要ハ條數ヲ書換ヘマシタカラ多ク見エマスガ、ソレニ關聯スルコトガ主モナノデゴザイマス、ソレカラモウ一ツハ、今マテ戸籍役場ト云フ名前ヲ付ケテ市町村デ取扱ツテ居リマシタノヲ、ナラ名實共ニ市町村役場デ取扱フト云フコトニ致シマシタノガ、一ツノ改正デゴザイマス、是ハヤハリ繁文縟禮デ、戸籍役場ト云フ看板ヲ掛けテ居リマスガ、實際市町村役場デアルノデゴザイマスカラ、其實際ニ改正スルノデアリマス、名前が變シテ居リマスル爲ニ市町村テ戸籍ト云フモノヲ利用スルコトハナカク、多イノデアリマス、或ハ徵兵事務ニ致シマシタ所ガ、外ノ事務ニ致シマシタ所ガ、戸籍吏ト云フモノト市町村吏ト云フモノトハ違フノデゴザイマスカラ、ヤハリ照會シテ取寄セルト云フ——取寄セルト云フヨリハ見ルト云フ手續ヲ盡サナケレバナラナカツタノデアリマスカラ、サウ云フコトノアリマセニヤウニ實際市町村役場デ市町村吏ガ取扱フノデアリマスカラ、名實共ニ市町村役場ニ於テスルト云フコトガ一ノ改正デアリマス、其他ハドウセサウナリマスト云フ、或ハ文章ニ少シ變リフ生ジマストコロモゴザイマスシ、又條文ノ順序等ガマルテ變シテ參リマスルノデゴザイマスカラ、ソレテ全文前ニ申シマシ通り書替ヘマシテゴザイマス、其序デニ字句ヲ整理シマシタ箇條——モゴザイマス、先ヅ大體ニ於テ私ヨリ御説明ヲ致シマスノハソレダケニ止メテ置キマス

釣サナイト云フ御考ヲ事實ノ上ニ確カナルホド何カ確カノコトガアリマスデセウカ

○政府委員（法學博士小山溫君）前ニ殊ニ戸籍役場トシ戸籍吏ト致シマシタハ、サウ云フ關係ガアッタラウト思ヒマスガ、今日ニ至リマシテハ大分戸籍事務ト云フモノハ整ヒマシテ、ソレニヤハリ監督ハ裁判所致シマシテ、此裁判所テ時々見廻リマスト云フヤウナコトヲ致シテヤリマスレバ、差支ナク行クト云フ考デゴザイマス

○石黒鑑君 スルト條項中ノ今マデノ名稱ダケ變ジテモ、ヤハリ裁判所ガ監督ヲスルト云フ點ハ改正前ノ現今ノ戸籍簿ト差違ハナイデスナ

○政府委員（法學博士小山溫君）左様デス

○島田俊雄君 チョット私モ御尋致シマス、唯今ノ御説明ヲ承ルト、現行法ニ於ケル一番重キ點トモ云フベキ、サウシテ改正ノ重ナ點ニナツテ居リマス身分登記簿デアリマスガ、是ハ殆ド唯一経費ヲ多く掛け、事ヲ面倒ニスル原因ニナツテ居ルノミテアッテ、更ニ効能ノナイモノ、ヤウニ聞ヘマスガ、私共ノ聞イテ居リマスル又記憶シテ居ル三十一年ニ此現行法ノ制定セラレタル當時ニ於テノ身分登記簿ト云フモノ、效能、其利益トシテ考ヘラレテ居ツタ點ハ餘程違ツテ居ルカノヤウニ思ヒマスガ、ソレハ實驗上サウ云フ風ニナツタト云フコトモアルカモ知レメト思ヒマスガ、ソレラノ點ニ付テモウ少シク御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、即チ現行法ノ制定ノ當時ニ於テ身分登記簿ニ付テ説明セラレタルトコロト、サウシテ現今身分登記簿ト云フモノガ必要ナイト云フコトニ御考ニナツ其經路ト云ヒマスカ、經過ト云ヒマスカ、其點ニ付テモウ少シ精シク説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、即チ現行法ニ依リマスト永久ニ保存スルト云フコトニナツテ居ル、改正法ニ依リマスト、戸籍簿ト云フモノハ其保存ノ期限ヲ司法大臣が定メルト云フコトニナツテ居テ、永久ト云フコトニナツテ居ラヌカラ、或ル時ヲ限ツテ之ヲ廢止シテモ宜ヤウナ風ニナルモノト考ヘテ居リマスガ、ソレラノ點ニ付テ大分此點ハ大ナル改正テ、重要ナル關係ヲ含ンデ居ルヤウニ考ヘマス、身分登記ヲ制定スル當時ノ身分登記簿ノ必要トシテ政府ガ主張セラレタ點ト、サウシテ現在之ヲ廢シタイト云フコトニ付テノ御考トノ其間ノ變化ニ付テ、モウ少シ精シク御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○大口喜六君 私モ今嶋田君ノ間ハレタ如キ質問ヲ政府ニ呈シタイト思ツテ居ツタノデスカラ、尙ほ島田君ノ迹ベラレタコトニ付テ少シ附加ヘテ承ハリタイト思フ、成程此身分登記簿ナルモノハ、唯今ノ狀態ニ於テ先刻政府カラ御述ニナツヤウナ事情ガアラウト思フノデアリマシテ、或ハ此身分登記簿ハ廢シタ方が今日ノ有様デハ宜カラウカト私共意見トシテハ思フノデアリマスガ、併シ現在身分登記簿ノ效能ハ確カニアルノデアリマシテ、身分登記簿ハ御承知ノ通り盡ク裁判所ニ出シテ、一枚々々ニ裁判所ノ檢印ガ押シテアッテ、ソレニ受付ノ順序ニ依ツテ身分登記ヲスルノデアリマスカラ、後日他ノ届出ガ登記簿ヲ廢シタ結果、之ニ對シマシテ受付ニ何カ取締法ガ附イテ居ルカト思ツテ法案ヲ通讀シテ見ルニ、別ニ受付ニ對スル特殊ノ取扱ハナイヤウデアリマス、スルト此身分登記簿ヲ全部廢シタ結果、無論大事ニ行テ參リマスレバ間違ハ出來ナイノデアリマセウ

ガ、若シ此願人又ハ届人ノ請託等ヲ入レテ、町村役場ア居出ニ順序ヲ左右シヤウト云辯申シマスガ、先程小山政府委員カラ説明致シマシタル通り、身分登記簿ノ効能ト致シマシテハ極メテ少ナイト云フコトニナツテ居リマシテ、其事柄ハ實際事務ニ當ツテ居リマスルトコロノ戸籍吏等ノ申出ニ依リマシテ、或ハ内務省ニ、或ハ司法省ニ屢々陳述スルトコロニ依リマスト云フト、身分登記簿ノ制度ト云フモノハ、徒ラニ勞多クシテ、其効少ナシト云フ聲が最モ實際家ナル戸籍吏ノ大ニ叫ンテ居ルトコロデアリマス、實際ニ之ヲ徵シテ見マスルト、誠ニ其言ノ如ク身分登記簿ノ効能ハ無ヤウニ感ジマスルノデアリマス、今假ニ東京區裁判所ノ四十三年四月ヨリ四十四年三月ニ至リマス一年間ノ身分登記簿ト戸籍簿トノ關係ニ就テノ統計ヲ申上ケマスト、一年間ニ於キマシテ東京區裁判所管内ニ於ケル身分登記ノ爲ニ謄本ヲ請求シタ者ガ僅カニ一千九十八件、閲覽ヲ申請シタル者ガ僅ニ三十二件、抄本ヲ請求シタル者ガ六十四件、此僅少ナル數ニ對シマシテ、戸籍ノ謄本抄本ノ請求ヲシ、閲覽ノ請求ヲシタ數字ヲ見マス、戸籍謄本ヲ請求シタ數ハ十一万三千二百三十七件、抄本が三万八千三百三十件、閲覽ノ請求ガ八千九百八十三件、斯ウ云フ風ニ雙方ヲ對照シテ見マスルト洵ニ身分登記簿ト云フモノガ利用サレテ居ルト云フコトハ殆ドナイト言ウテモ大ナル誤リテハナカラウト思ヒマス、而カモ謄本ノ請求ノ一千九十八件中、何ノ爲ニ之ヲ請求シタカト云フト、其中八百三十件ト云フモノ中八百三十八件ハ、身分ノ變更アルガ爲ニ謄本ヲ請求シナケレバナラヌ必要ヲ生ジタノデアル、其殘リノ數が僅ニ三百五六十件ノ中ノ二十件位ガ利用サレタニ過ギナイト思フノデアリマス、之ニ反シテ戸籍謄本ハ十一萬ト云フ多數ニ上ツテ居ル、此十萬ト云フ戸籍謄本ガ、或ハ裁判所ニ、或ハ區役所ニ、或ハ公證役場ニ身分ノ證明ヲシマス爲メノモノデアリマス、斯様ナコトデ、唯東京區裁判所ノ關係ノ戸籍役場ノダケノ數ニ依リマシテモ斯ウ云フ結果ヲ現ハシテ居リマス、而カモ此叫ビガ戸籍簿ガアレバ身分登記簿ヲ別ニ設ケテ置ク必要ハナイト云フコトニナル、又反對ノ經費ノ點ニ就テハ、先程説明致シマシタル通り、約ソ帳簿作製ノ費用モ七八万圓掛ル、其他之ニ要スルトコロノ雜費若クハ吏員ノ俸給等ヲ加ヘマスルト夥シキ町村ノ負擔ニナルト思フ、尙ほ且ツ之ヲ保存致シマスルノハ現行法アリマスレバ、身分登記簿ハ永久保存ニナツテ居リマスル所カラシテ、是ハ市町村ニ於テモ、亦裁判所ニ於テモ、實ニ其保存ノ場所ニモ困ルト云フ位アリマス、是モ東京地方裁判所ダケノ戸籍役場ノ身分登記簿ノ厚サヲ概算シテ見マスト、裁判所ノ方ヘ參リマストコロノ此身分登記簿ノ副本ヲ、年々御承知ノ通り裁判所ニ保存シテ居リマスカラ、地方裁判所ニ於テモ、實ニ其保存ノ場所ニモ困ルト云フモノガ高サ約五十間バカリニ上ボルノデアリマス、美濃紙アリマシテ、其厚サガ五

十間、是ハ裁判所ノ方ニ永久保存スル身分登記簿ノ厚サガ五十間ニナツテ居リマスガ
市町村ノ方ニ蓄ヘテ居リマスル身分登記簿ノ厚サハ、之ニ約二分ノ一ヲ加ヘナケレバ
分登記簿ハ、裁判所トハ違アリ縦令白紙ガアリマシテモ、ソレヲ抜キ取ラナイ、帳簿其モノ
ヲ保存スルカラ澤山ナ高サニナリマス、斯様ナ工合デ僅ニ東京區裁判所管内ノ一箇年
間ノ身分登記簿ノ厚サガ五十間ノ高キニ一ボルトスウ致シマスルト、之ヲ永久保存トシ
テ見マスルト、實ニ幾ツモノ藏ヲ造ラナケレバナラヌ、所ガ現ニ今日ニ於キマシテ東京地方
裁判所ノ彼ノ御覽ノ通リ堂イタル建物ノ四階八足が爲ニ充満シテ居ル、今ヤ置ク所ガ
ナイト云フ工合デ、地方裁判所ノ三階ヲモ借りテ保存シナケレバナラヌト云フ状態デアリ
マス、斯様ニ一面ニハ利用サル、道モナク、一面ニハ斯様ニ數多ノ経費ヲ要スル、斯ウ
云フ次第アリマシテ、而カモ是ハ机上ノ空論デザイマセヌ、從ツテアノヤウナ所ニ身分
登記簿ヲ置ク必要ガナカラウト、斯フ云フコトデ此身分登記簿廢止ノ案ヲ作りマシタ次
第アリマス、而シテ現行法ニ依レバ身分登記簿ハ永久保存ト云フコトデアリマスガ、戸
籍簿又除籍簿ニ付キマシテハ一定ノ期間ヲ設ケル必要ガアリマスガ、戸籍簿ハ働イテ
居ル間ハソレハドウシテモ廢止ニスルコトハ出來ナイノデアリマスカラ、ヤハリ效能ニ至リマ
シテハヤハリ現行法ノ如ク、受付月日ヲ記入致シマシテ、サウシテ番号ヲ附シテ、其届書ト
云フモノハ區裁判所ニ保存スルコトニナツテ居ルノデアリマスカラシテ、是亦前後錯綜シテ
登記簿永久保存制度ト少シモ實際ノ結果ニ於テハ變ハルコトハナイト思ヒマス、サウ云
何カ當事者が戸籍吏ト結託シテトヤ斯ウスルト云フコトモナカラウト思ヒマス
○島田俊雄君 唯今ノ御説明デ質問致シマシタ一部分ハ了解致シマシタガ、尙ホモウ
少シ御聞キシテ見タトイ思ヒマス、今御説明ニナリマシタ此身分登記簿ト云フモノガ、勞
多クシテ効ガ少ナイト云フコトニ就テハ、本員ノ如キモ其感ヲ同シウシテ居リマス、其點
ニ就ア多ク異論ヲ自分トシテハ持ツテ居ル譯デハイノデアリマス、唯私が茲ニ御説明ヲ
願ヒタイト希望致シマスル點ハ、之ヲ御説明ノヤウデアリマスト、現行法ニ於ケル此身分
登記ノ制度ト云フモノハ殆ド有害無益ト云フヤウナモノニアッテ、之ヲ制定シタ所ノ現行
法ノ制定當時ノ理由ト云フモノハ九デ没却サレルト云フコトニ歸着スルヤウニ考ヘラレル
ノデアリマス、此點ヲ私ハ御聞キシタイ、現行法制定以前ニ於ケル我國ノ身分登記ノ
制度ハ、現行法ノ身分登記ノ制度ヲ置クト云フ主義ト其理由ガ分レテ居ツテ、ソレガ
十幾年ノ實驗ニ依テ此ノモノガ不都合デアルト云フコトヲ實際家モ認メ、斯ク云フコト
ヲ言シテ事實斯ウ云フ結果ヲ見ルニ至ツタノハ其點ヨリ起ル考デアリマセウガ、一面カラ
考ヘレバ、身分登記ノ制度ニ不都合ノ點ガアレバ之ヲ矯正スルコトモ出來ルデアラウ、即
チ永久保存ト云フコトデアルガ爲ニ帳簿ガ非常ニ多クナリ困ルト云フ其點ニ就テ改正ヲ
加ヘルト云フ便宜法ヲ講ズルコトモ出來ルデアラウ、身分登記制度ノ根柢ヲ覆ス必要ハ
ナイカモ知レヌト思、其點ニ付テ制定當時ノ理由ニ鑑ミテ覆ヘスト云フコトニセラレタ

ハセヌカト思フ、即チ現行法ヲ御提出ニナルモノト假リニシテ、其當時ニ於テ今マテ身分登記ノ制度ノ無イトコロヘ身分登記ノ制度ヲ置クコトハ、斯ウ云フ效能ガアルト云フコトヲ御説明ニナツタデアラウ、其説明ヲシタ口カラ更ニ之ヲ廢スルト云フ、説明ヲセネハナラヌヤウニナツタコロノ事情ニ付テモウ一遍繰返シテ見テ下スツタナラバ、私ノ満足スル答辯ヲ得ヤウカト思フ、ソレカラ附加ヘテ申シマスガ、唯今經費節減トカ實際ノ戸籍事務ニ當ツテ居ル戸籍官吏ノ申立ト云フコトモアリマシタガ、是モ改正ノ理由トシテ一應受取レヌコトモナイガ、私ハ國家ノ戸籍事務身分登記等ノ此種ノ仕事ノ根本ノ上カラ大體ヲ見ルト、少額ノ費用ノ節減トカ、或ハ各市町村ノ戸籍刀筆ノ事務ニ當ツテ居ル吏員ノ申立ヲ重ク見ルヘキモノデハナイト思ヒマス、私ハ根本ニ這入シテ身分登記ノ現行制度ヲ永久保存ト云フコトヲ有限保存ニスルト云フコトダケデハイカヌ、當初ノ理由ハ斯ウデアツカレドモ、實際ニ於テ斯ウ云フ結果ニナツテ居ルカラ改正スルノデアルト、モウ少シ深イ御説明ヲ伺ヒタイ、其事ヲ最初カラ申シテ居ルノデ

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）御承知ノ通り現行戸籍法ハ急速ニ制定公布シナケレバナラヌ事情ノアリマシタコトハ皆サン御承知ニアリマセウ、即チ三十一年七月十六日ニ民法ヲ實施スルニ當リマシテ、ドウシテモ民法ヲ實施スルトセバ戸籍法ト云フモノハ之ニ伴ハナケレバナラヌト云フノデ、大急ギテ言換レバ一夜作リノ法律ト云フヤウナ事情ニ戸籍法ト云フモノハ制定サレマシテ、而シテ其當時ノ立法者ノ考トシテハ、民法ニ於テ所謂届出行爲ト云フモノガ五ツ六ツ認メラレテ居ル、例ヘバ婚姻ニアルトカ、離婚ニアルトカ、養子縁組ニアルトカ離縁ニアルトカ云フヤウナモノガアツテ、戸籍吏ニ届出テナケレバ身分關係ヲ生ジナイト云フ民法ノ實體法規ニナツテ居ルノニアリマス、ソレ故ニソコラノ規定ニ基キマシテ、戸籍簿ト云フモノハ所謂戸々ノ籍ヲ明カニシ、身分登記簿ハ各自ノ身分ヲ明カニスル、斯ウ云フ趣意デ身分登記簿ト戸籍簿ト云フモノ、併存ヲ見タモノト信ズルノアリマス、然ルニ此目的ヲ達スルニハ――身分登記簿ト云フモノガナケレバ、唯今ノ目的ヲ達スルコトが出來ナイカト云フコトヲ、實施後今日迄十五年ノ日子ニ於テ研究シテ見ルト、別段届出行爲ト云フモノハ身分登記簿ト別ノ制度ノ下ニ登録シナケレバ民法ノ實施法規ノ運用が出來ナイト云フモノデハナイ、戸籍簿ニ登録シテモヤハリ民法ノ届出行爲ト云フモノヲ全ウスルコトが出來ルノデアル、而モ此戸籍法ト云フモノト身分登記簿ト併存シテ居ル現行法規ト云フモノニ違ツタコトが書イテアルカト云ヘバ、達ツタコトハ書イテ居ラナイ、殆ド同シャウナモノガ書イテアル、唯僅カニ三四ノモノガ身分登記簿ニアツテ、戸籍簿ニナイト云フニ過ギナイ、シテ見マスルト、ドウシテモ身分登記簿ト云フモノガナケレバ民法ノ實體法規ヲ運用スルコトが出來ナイト云コトナラバ、如何ニ經費多シト雖モ、如何ニ勞多シト雖モ、法規ノ上ニ認メテ置カナケレバナラヌト云フ必要ガアリマスケレドモ、唯今申シマス通り、身分登記簿ト云フモノヲ廢シテモ、其身分登記簿ヲ昔指ヘタ當時ノ目的ト云フモノハヤハリ達シ得ラレルト云フ考テ廢シタ次第ゴザイマス

分登記簿ハ廢止スルト云フコトニナルト、今マテノ身分登記簿ハ總テ棄却サレル御積リ

デアルカ、又是ハ永久ニ保存シテ置ク御考デアルカ、其點ヲ伺ヒタ

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）過渡ノ時代ニ於キマシテ直グ様廢棄スルト

云フコトハイケマイト思ヒマスカラ、何レ或時期ニ於テハ廢棄スルコトニナリマセウカ、或ハ

當分ハ保存シテ置クコトト思ヒマス、其當分ト云フ年限ハ二十年ニ定メマスカラ、或ハ

十年ニ定メマスルカ、未ダ定メテ置キマセヌ、直チニ廢スルト困ルト思ヒマスカラ、直グニ

ハ廢シマセヌ

○光森德治君 唯今島田君カラ御尋ニナッタ事柄ト同ジテアリマスガ、能ク法律ナドト

云フモノハ、或ハ獨逸ニ行ケバ獨逸流ガ來レ、佛蘭西ニ行ケバ佛蘭西流ガ來ルト云フヤ

ウニ、能ク外國ノ事ヲ摸倣シテ居ルノアリマスガ、何カ身分登記モ何處カニ其様ナモノ

ガアツテ、彼處ニアルカラ是モ拵ヘテ置カネバナラスト云フ考デ、ソレニ依テ出來タモノデハ

ナイカ、單ニ民法ニ依テサウ云フコトヲ推及シテ拵ヘタ一夜作リノモノデアル、日本ダケ

デ外國ニハ一切ナイト云フコトアリマスカ、其邊ハドウデスカ

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）御承知ノ通り、家族制度ヲ用ヒテ居ルノハ

東洋アツテ、今日ニ於テハ昔ハ儲テ措キマシテ——ソコデ外國ニ於テハ、身分證書トカ

或ハ身分登記簿トカ云フモノニ付テ、各人ノ身分ヲ明カニシテ居ル、從ツテ身分ノ續キ柄

モ分ルコトニナッタ居リマス、所ガ日本人ハ家族制度テ、戸主家族ト云フ關係ガアリマス

カラ、戸籍ト云フ編成ヲスルコトが必要ニナッタノアリマス、斯ウ云フ風ニ戸籍簿ト身分

登記簿ト兩立シテ居ル現行法規ト云フモノガ他國ニ現存シテ居ルカドウカ、唯今ノトコ

ロデハ承知シテ居リマセヌ

○光森德治君 サウスルト日本ハ家族制度アルカラト云ツテ、戸籍ア事足ルモノヲ、

外國ニ身分登記ガアルカラソレモヤッテ置カナケレバナラスト云フ具合ニナッタノアリマス

カ

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）現行戸籍法制定ノ當時ニ於テサウ云フ考

ガアツテシタカ、無クテシタカ、私カラ明言スルコトハ出來マセヌガ、イロ／＼ナ考ガアツタカモ

知レマセヌ

○野村嘉六君 今政府委員ノ御説明ヲ承リマスト、御尤ノヤウニ思ヒマスガ、詰リ戸

籍簿ト身分登記トハ八重二ナツテ居ルト云フコトアリマスガ、併ナガラ身分登記ニアル

コトニ戸籍簿ニ無イ二三ノ事項ガアルト云フコトヲ司法次官カラ聽キマシタガ、其中ノ一

トシテ胎内ニ於ケル生兒ノ認知、是ハ一ツハ聽キマシタガ、其外ノ二三ノ事項ガアルト云

フノハドウ云フ事項アリマスカ、是ハ簡単ニ概要ダケヲ承レバ宜イノデス

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）今一ツハ家督相續人ノ指定デス、胎兒認

知ト胎兒否認、胎兒認知ノ取消

○野村嘉吉君 マダ調ベテ見ヌカラ十分分リマセヌガ、此結果民法ノ規定ヲ改正スル

ヤウナ關係ニナツテ來マセヌカ

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）ソコハ觸レナイン積リテス

○荒川五郎君 サウスルト記載スルコトヲ得ト云フノデ、ドウナルノデスカ

コトニ戸籍簿ニ至ツタノアリマス、其點ハ附則第百八十四條ニ於キマシテ「舊法

ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得」ト云フ規定

ヲ設ケテ、其缺ヲ補フコトニナツテ居リマス、ソレカラ……

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）是テ記載が出來ルノデス、ソレカラ種痘徵兵

等ノコトデゴザイマスガ、是モ成程議ハアリマシテ討議モ盡シマシタガ、現行法ノ規定ニ於

テ種痘が濟ンダカ濟マヌカト云フコトヲ戸籍簿ニ載セルト云フコトハ、アレハ戸籍トシテ載

セルノデハゴザイマセヌデ、戸籍ヲ店借リシテ之ニ載セル方が便宜ダト云フノデ、別段ノ

法規が出来テ載セテ居ルノデス、ソレデアリマスカラノ規定ノ廢サレザル限りハ載セルコトニ

ニ性質が違フデアラウト思ヒマスカラ、戸籍ニ載セルト云フコトハ穩當デアルマイト云フノ

デ載セマセヌ、尙ホ又ソレ等ノコトヲ考ヘマスルト、或ハ前科者ニ前科何犯ト云フコトヲ

が全國到ル處唱ヘラレテ居ルノデ、斯様ナモノヲ制定スルニハ、非常ニ御注意ヲシテ下サ

ラスト實二十何年間無用ナ手數ト大ナル費用ヲ掛ケルコトニナルノデ、町村吏員ナドモ

政府ガ斯シナ無用ナコトヲヤッテ居ルト言ウテ居ルシ、議會ナドデモ一ノ笑話ノ材料ニナツ

テ居ツタノアリマスカラ、今之ヲ改メラレルト云フノハ宜イコトデ、無論早ク改メナケレバナ

ラスノアリマスガ、斯ウ云フヤウナコトハ幾種モアルノアリマスカラ、將來立案セラルル

時分ニハ餘程御注意ヲ願ハナケレバナラヌ、トコロテ此戸籍法ヲ行ウテ唯今ニ三箇條ダ

ケハ殘ツテ居ルト云フコトニナルト、今迄ノ身分登記ヲマルテ廢棄シテシマヘバ、其二三箇

條ニ付テ將來必要ナ場合ニ差支ガ起キハセヌカ、ソレハ唯今ノ御話デハ甚ダ僅カナモノ

デ、將來サウ云フ事ガアルコトハアルマイト思ハレマスガ、ソレハ何レ取扱施行ノ方ア極メ

ルコトデアラウト思ヒマスガ、ソレハドウスル御見込デアリマスカ、將來ノハ是デヤルケレドモ、

今迄ノハ更ニ寫スト云フノデスカソレヲ伺ヒタイ、第一ニハ他ノ法律規則デ、即チ種痘ノ

如キハ種痘ヲシタト云フコトガヤハリ戸籍ノ一部デアルト云フノデ、戸籍法デナイ法律デソ

レヲ記載スルコトニナツテ居ル、是等ハ戸籍簿ヲ此戸籍法デ改正スルコトニナレバ、之ヲ

統一セラレタ方ガ宜カラウト思フノニ、此法文ノ中ニ其中ガ書イテナイヤウニ思フ、モウ一

ツハ兵役ノ關係デス、現役トカ國民兵トカ云フコトガ戸籍簿ニ記載シテナイタメニ、地方

ノ役場ニ於テ往々間違ラ生ズルコトガ實際ニアル、更ニ其方ノモノニ付テ見レバ分ルノア

リマスガ、事務ノ取扱上戸籍簿ニ依テ多ク扱フコトニナツテ居ルノデ、差支ガアル、今之

ヲ戸籍簿ニ掲ゲテ置ケバ便宜デアルト云フコトヲ唱ヘテ居ルノアリマスガ、兵役等ノコ

トハ純然タル戸籍ノ方デナイカモ知レマセヌガ、種痘ノ方ハ戸籍ノ方ニ屬シテ居リマス、

私共ハ兵役ノコトナドハ此種痘ノ事ナドヨリモ一層重イモノト思ヒマスガ、ソレ等ノ事ハ

御考ガナカツタノデスカ、併セテ問フテ置キタコトハ、先刻御説明ノ趣旨ニ依テ改正セ

ラレタル此改正ノ條文ノ主ナルモノ、此中テ斯ウ云フ趣意ニ依テ身分登記ハ廢シタガ、

此所ガ主モナモノアアルト云フコトヲ大體御説明ヲ願ヒタイ、此四點ヲ伺ヒマス

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）第一問ニ御答ヲ致シマス、現行戸籍簿ニ

記載ナキ事項デアリマシテ、先程申上ケマシタ通り新法ニ依リマスト一二三記載シナケレ

バナラヌ事項ヲ見ルニ至ツタノアリマス、其點ハ附則第百八十四條ニ於キマシテ「舊法

ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得」ト云フ規定

ヲ設ケテ、其缺ヲ補フコトニナツテ居リマス、ソレカラ……

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）是テ記載が出來ルノデス、ソレカラ種痘徵兵

等ノコトデゴザイマスガ、是モ成程議ハアリマシテ討議モ盡シマシタガ、現行法ノ規定ニ於

テ種痘が濟ンダカ濟マヌカト云フコトヲ戸籍簿ニ載セルト云フコトハ、アレハ戸籍トシテ載

セルノデハゴザイマセヌデ、戸籍ヲ店借リシテ之ニ載セル方が便宜ダト云フノデ、別段ノ

法規が出来テ載セテ居ルノデス、ソレデアリマスカラノ規定ノ廢サレザル限りハ載セルコトニ

ニ性質が違フデアラウト思ヒマスカラ、戸籍ニ載セルト云フコトハ穩當デアルマイト云フノ

デ載セマセヌ、尙ホ又ソレ等ノコトヲ考ヘマスルト、或ハ前科者ニ前科何犯ト云フコトヲ

が全國到ル處唱ヘラレテ居ルノデ、斯様ナモノヲ制定スルニハ、非常ニ御注意ヲシテ下サ

ラドウデアラウト云フヤウナヨ／＼ノ議モアリマンタガ、サウ云フ難多ナ事柄ヲ載セルノハ成程便利ハ便利デアルカ知レマセヌガ、苟モ戸籍法規ト云フモノ、性質カラ考ヘレバ、其性質ニ屬セザルモノハ如何ニ便利ナリト雖モ載セルコトハ穩當デアルマイト云フノデ、此所ニ規定ニナック所、以テアリマス

○荒川五郎君 サウスルト今迄ノ身分登記簿ニアリタル事項ニシテ、戸籍簿ニナカッタモノハ書イテモ書カヌテモ宜イ、斯ウ云フ譯ニナルノデスカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 左様デゴザイマス

○荒川五郎君 刑罰ヲ受ケタ者ハ戸籍簿ヘ記入シテ、戸籍ノ謄本ニモソレガ付クヤウニ心得ニ居リマスガ、如何デスカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 唯今ソレハ廢メマシタ

○野村嘉六君 此戸籍法ノ改正案ヲ手ニ取ツテマダ十分讀ンテ見マセヌガ、果シテ戸籍ニ入レルノガ適當デアルヤ否ヤ問題デアリマスガ、民法ノ十二條ニアリマスカ、アノ規定竝ニ親族相續ノ關係上準禁治產者ノ表示デアリマス、ソレガ今日ノ程度ニ於テハ官報ニ出ルコトニナッテ居リマスガ、官報ヲ讀ム人ハ少ナインデ、又讀ミマシテモ小サイ字デ書イテアリマスカラ、注意ヲスル人ガ少ナインデアリマス、處が準禁治產ニアル人ガ詰リ第三者ヲ取引ヲシテ、第三者ニ損害ヲ及ボサセルト云フコトハ此地方ニハ間ミアリマス、取引ヲシタ後トテ調べテ見ルト準禁治產者ニアリタト云フ議論ガアルカモ知レマセヌケレドモ、身分ノ關係モニ戸籍ノ中ニ入レテアリマス、法案デアリマス、身分上ニ關シカラ、此一部ノ御掲載御規定ヲ願ツタ方が適當デナイカト思ヒマス、其處ヲ一言申シテ置キタインハヤハリ此戸籍法ニ規定スルコトハ性質が違ブト云フ議論ガアルカモ知レマセヌケレドモ、身分ノ關係モニ戸籍ノ中ニ入レテアリマス、法案デアリマス、身分上ニ關シタ關係スラモ戸籍ニ書キマシテモ事實ニ於テ害がナイト云フ趣意ヲ規定ヲサレマシタ、是ハ至極宜イ話デアリマス、シテ見レバヤハリ一種ノ準禁治產者ト申スノモ或ル身分行爲デアリマス、サウシテソレガ戸籍法ニ書イテアリマス、法案デアリマス、身分上ニ關シトガ分リマスカラ、取引スル人モ非常ニ便益ヲ得ラレマス、サウスレバ取引ニ付テ不時ニ損害ヲ蒙ルト云フ人ガナササニ考ヘマス、法律論カラ精確ナル議論ヲ致シマスレバ、今申シマシタ點モ掲載スルコトハ宜クハアルマイカト考ヘマス

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 御尤ノ御質問デアリマスガ、ソレ故ニ改正案ノ十八條ノ十三三輔佐人ノ規定ヲ置キマシタ

○大口喜六君 今マテノ御説明ニ對シテ尙ホニツバカリ疑問ガアリマスカラ、承リタイ、身分登記簿が止マリマス結果、胎内ノ私生兒認知ト其認知取消ト家督相續トノニツカ記載サレナクナリマスガ、其中私ニ疑問ト致シマスノハ私生兒ノ認知デアリマス、民法ノ第八百二十七條ニ依ルト私生兒ニ對シテ——庶子ノ認知ハ私生兒ニ對シテノミ出来ルノデアリマス是ハ言フマデモナク、又八百二十一條ニヨレバ父が胎内ナル子ト雖モ認スルコトが出來ルト云フコトニナッテ居リマス、ソレ故ニ是マデノ戸籍法ニヨレバ、胎内

ノ私生子ノ認知ハ、父カ母ノ胎内ニアル子供ヲ認知シテ身分登記簿ニ掲ゲテ、初メテ父ガ庶子出生ノ届ヲ致シマス、民法ノ即チ八百二十七條ト八百三十一條トノ一箇條ヲ適用スル結果サウナリマス、處が改正案デハ其改正法ノ八十三條ニ依リマシテ「父カ庶子出生ノ届出ヲナシタルトキハ其届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス」トナッテ居リマス、今度ノ改正法デハ——處が民法ノ八百二十七條ニ「私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得」「父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス」トアリマス、然ルニ今後ノ八十三條ニハ「父カ庶子出生ノ届出ヲナシタルトキハ」トアリマスケレドモ、是ハ如何ニモ民法ニ遡ツタ改正デハナイカト思ヒマス、先刻御説明ニナリマシタ處デハ、私生子認知ノ登記が止マリマスカラ止ム得ズ此八十三條ノ規定が出來タト思ヒマスガ、前申ス如ク庶子ト云フモノハ私生子が認知サレテ初メテ現ハルモノデアリマスカラ、民法トノ間ニ抵觸スル處ハアルマイカト思ヒマス、又第一三市町村長ハ改正戸籍法ニ於テハ其事務ヲ國家ノ管掌事務トシテ執ルコトニナリマスガ、其町村長ニ故障ガアリマシタ場合ハ、戸籍簿ニ付キマシテハ職務ヲ行フコトが出來マセヌカラ、助役が代々テ事務ヲ行フコト思ヒマスガ、若シ助役ト村長トが緣組ガアレバ是ハ誰ガ取扱マスカ、是モ舊戸籍法ニ問題ニナッテ居リマスケレドモ、是迄ハ戸籍吏ト云フ特別ノモノデアリマスカラ、司法省ノ通牒ニ依テ上席者ガ扱ヘト云フ内訓ガアリマスカラ、ソレニ依テ收入役方扱シテ居ル處モアル、上席書記ヲシテ扱ハセテ居ル處モアリマスガ、今度ハ當然市町村長ガ管掌ヲ致シマスカラ、市町村制ノ規定ニ依ルコト思ヒマスガ、サウスルト市町村制ニアリマスガ、市長助役共ニ故障ノ場合ハ、知事が市長代理者ヲ指名シテ管理ヲセシメル外ハナイト、斯ウナルト餘程重大問題トナリマスガ、果シテ市町村長ト助役トノ間ニ縁組ヲシタ時ニハ誰が取扱フカハ問題デアラウト思ヒマス、是が第二ノ問デアル、第三ノ質問ハ新法ノ末項デアリマス、附則ノ百八十四條ニアリマスガ、此新法が行レマス結果「舊法ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有ス」トアルニモ拘ラズ、是が其第二項ヲ打子消サレテ居リマス、司法大臣ハ本規定ニ依シテ戸籍ヲ改製スルコトヲ命ヅルコトヲ得トナッテ居リマス、若シ舊戸籍ノ改製ヲ命ゼラレタ場合ハ、市町村ハ非常ニ煩雜ニナリマシテ、身分登記簿ヲ廢メラレタ位デハナイ、即チ司法大臣ハ戸籍ノ改製ヲ御命ジニナリ改製サレルノデアルカ、止ムヲ得サル場合ニノミ命ズルノデアルカ、是非常ニ煩雜ニナリマシテ、身分登記簿ヲ廢メラレタ位デハナイ、即チ司法大臣ハ戸籍ノ改製ヲ御命ジニナリ改製サレルノデアルカ、止ムヲ得サル場合ニノミ命ズルノデアルカ、是ガ庶子出生ノ届出ヲ爲サシテ、又今度ハ父カラ認知ノ届出ヲスルト云フヤウナコトハ二重スケレドモ、必ズシモ庶子ニナルニハ三段ニサウ云フ名前ヲ戸籍ノ上ニ別ケテ置カケレバナラヌト云フ精神デハナカラウト思ヒマス、ソレ故ニ八十三條ヲ設ケマシタノハ、初メ母カラ私生子ノ届出ヲ爲サシテ、又今度ハ父カラ認知ノ届出ヲスルト云フヤウナコトハ二重手續ニアリマスカラ、ソレヲ避ケマシテ一本ノ届出——即チ子ノ届出ヲ父ガナセバ——外ノ女ガ孕ンダ子ヲ自分カラシテ出生届ヲスレバ、取モ直サズ我子タルコトヲ認知シタ云フコトニナリマスカラ、一本ノ届出ニ依シテ認知效力ヲ其届出ニ附與シタ、斯ウ云フ譯デ

ゴザイマス、即チ手續ヲ簡略ニ致シマシテ以テ認知ノ目的ヲ達セシメル、斯ウ云フ譯カラ此條文ヲ設ケタノデアリマス、ソレカラ次ハ市町村長ト助役トが戸籍事件ノ關係ヲ生ジタルトキニハ誰ガヤルカト云フ御話デアリマスガ、是ハ二條ト七條トヲ組合セマスルト、若シ其市町村ヲ代理スル吏員ニ差支ガアツタナラバ、ヤハリ二條ノ規定ニ依リマシテ其人ハ戸籍事務ヲ取扱フコトハ出來ナイ、斯ウ云フコトニナルノデアリマシテ、市町村事務ノ代理人者ハ、市制カラ申シマスレバ市制九十四條ニゴザイマシテ、市長が差支ヘレバ助役

ガアレ、大キナ市ニハ助役モ一人デハアリマセス、一人以上モゴザイマス、ソレカラ又助役
モ差支ガアレバ、市行政ノ一部ヲ他ノ吏員ニ代理者ヲ擇ヘテ兼掌セシムルコトが出来ル
ト云フ規定ガゴザイマスカラ、各代理規定ニ依テ市長助役、助役が差支ヘルトキハ、其
代理者ガ取扱フト云フコトニナルノアリマス、收入役ハ市長ノ行政事務ヲ取扱フ權能
ガアリマセヌカラソレニハサセマセヌ、ソレカラ第三ノ御問ニ付キマシテハ、成程一時ニ改製
ヲ命ズルト云フコトニナリマスレバ、市町村ノ經費ト云フモノハソレハ莫大ナコトニナリマス
カラ、決シテサウ云フコトハ致シマセス、臨機其必要ニ應ジマシテ、例ヘバ蟲害ニ罹ツテ居ル
トカ、或ハ使ヒ古シテ醜クナッテ居ルトカ云フヤウナ戸籍デアリマスレバ、漸次改製ヲセシム
ル積リテアリマシテ、一度ニ命令ヲ發シテ、全部一時ニ直スト云フ趣意デハナイノデアリ

○大口喜六君 私ノ第一問ノ私生子認知ノ問題アリマスか、是ハ餘程能ク承シテ置キマセヌト全國ノ戸籍吏ガ一大疑問トシテ居ルコト、信ジマス、是マデ司法省ノ解釋ハ、庶子ト云フモノハ是非共私生子ヲ認知シナケレバ庶子デナイ、斯ウ云フ解釋デアッタ確信シテ居リマス、司法省ノ通牒モサウナツテ居リマス、私ノ信ジテ居ル範圍デハ民法モ左様ナ解釋ニナツテ居ツ、私生子ハ認知シタ上デナケレバ斷ジテ庶子デナイ、斯ウ云フ解釋デアッタ、ソレカラ又胎内ニアル子ニアレバ、一度之ヲ認知シテ置カナケレバ、出生シタトキニ庶子ト云フ届出ハ出來ナイ、斯ウ云フノガ司法省ノ見解デアッテ、ソレヲ全國ノ戸籍吏ハ奉ジマシテ其趣旨ヲ取扱ツテ居ルト私ハ信ジテ居リマス、然ルニ唯今御説明ニ依リマスト、庶子ト私生子ト云フモノハ何處ト云フ達ヒハナイモノデアルカラ、其母ノ腹ニ宿ツタ子ガ生レル、サウスルト或男ガ私ノ庶子デアルト直グニ届出ヲズルコトガ出來ル、サウシテ其胎内ノ子ヲ溯ツテ認知スルノデアル、斯ウ云フコトノ改正ニナルト、是マデノ御解釋トハマルデ違ツタ、モウ腹ノ中ニ子が出來ルト庶子ニ認ムルト斯ウ云フコトデアリマスカラ、是マデノ御解釋トハ——民法ノ八百三十二條、八百二十七條並ニ八百二十七條ノ解説が是マテアリマス、是カラハ違フト認メテ宜イノデアリマス

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君）前來ノ訓令モアリマスカラ、實際ヲ取扱ッテ居ル主任ヲ呼寄セタウゴザイマスカラ、御許ヲ願ヒマズ

○司法省參事官(山内確二郎君) 唯今ノ御尋ニ付キマシテ 主任ノ私カラ御許ヲ得
マシテ簡単ニ申上ケマス、唯今御引ニナリマシタ民法デスガ、私生子ハ之ヲ認知スル、認
知スルニ付テハ必ズ私生子テナケレバナラヌ、或ハ又胎兒ヲ認知シテ、其胎兒が出生生ヨ
致シマスト之が庶子トナリマス、ソレデ必ズ其認知ヲスルニハ庶子ト云フ身分ハナケレバナ

ラヌノデ、嫡出子ナリ或ハ其他ニ付テハ認知ト云フコトハ起ラナイ筈デアル、是ハ尤ノコトデ御意見ノ通デアリマス、然ルニ戸籍ニ私生子ト云フ身分ヲ記載スル必要アリヤ否ヤ、戸籍ニ私生子ト記載シナクテモ、父ノ認メザル子ハ即チ私生子デアル、一旦私生子ト云フコトヲ戸籍ニ記載致シマス、之ガ私生子トナルカラ、今度戸籍面ノ私生子ハ特ニ認知ノ届出ヲシナケレバ庶子トナラヌト云フコトニナル、然ルニ未ダ出生届ヲ致サザル場合、私生子デアルガ、未ダ出生届ノナイ場合ニ、一旦私生子ト云フコトヲ戸籍吏が記載致シテ、更ニ之ヲ認知ノ手續ニ依テ再ビ庶子ト改メル必要ハナイ、御承知ノ通リ認知ハ出生ノ始メニ溯テ效力ヲ生ズル、即チ認知セラタ私生子ハ出生ノ時カラ庶子デアル、是ハ民法ノ立テ方デアリマシテ、一タビ認知セラレタルモノハ初カラ庶子デ、私生子ト云フヤウナコトハナイモノトナルノデアリマスカラ、ソコテ庶子出生届ヲ出スコトヲ許シマシテ、其庶子出生届ハ即チ認知ノ效力ヲ有スルモノデアルト云フコトヲ戸籍法ノ中ニ今度明カニ規定ヲ致シマシタ、スルト私生子ト云フヤウナ身分ハ特ニ戸籍ニ現ハサズシテ、初カラ庶子ト云フコトニナッテ戸籍ニ記載サレル、スルト子ノ爲ニセ幸福デアリマシ、私生子ト云フ名前ヲ重複ニ書カズニ濟ム、今マテ認知ノ届出ガナケレバ庶子出生届ト云フコトハ許サヌ、私生子ト記載スル外仕方がナイカラ總テ私生子ト云フモノハ認知セラレテ庶子トナツタト云フコトガ一遍ニ現ハレルノデ、民法ノ趣意トハ少シモ抵觸スルトコロハナイト思ヒマスト書イテアル、トコロガ今度ノ改正ニ出マシタトコロノ法案ニ依リマスト、父ガ庶子出生ノ届出ヲ出ストキハ、其届ハ認知届、效力ヲ有スル、サウナルト母ノ承諾ト云フモノハ無クテモ宜イヤウニ見エル、戸籍法が民法ヲ打破ルヤウニ見エル、其點ハ如何デアリマスカ○司法省參事官(山内確三郎君)此胎兒認知ノ關係ハ、是ハ現行法ト雖モ、ソレカラ此案ト雖モ、全ク相違ハナイノデ、又出生前ニ認知スルヲ胎兒認知ト云フコトハ勿論デアリマスカラ、其場合ニハ胎兒認知ノ外致方ナイ、胎兒ヲ認知スルトキニハ、御承知ノ通リ母ノ同意ヲ要スル、同意ノ書面ヲ作ツテ胎兒認知ノ届出ヲスルコトハ現行法モ戸籍法モ變リハナイノデアリマス、之ニ反シテ胎兒ヲ認知セズシテ產マレタ後ニ出生届ヲ爲ストキハ、唯一遍ニ認知が出來ルノデアリマスカラ、其關係ハヤハリ民法ノ趣意ト此戸籍法ノ趣意トハ相違ハナイノデアリマス
○大口喜六君 唯今ノテ胎兒認知ノ母ノ届出ノ點ハ分リマシタ、サウスルト今マデノ解釋ヨリハ廣ク解釋セラレテ、民法ノ解釋が變ツテ來タコトニナルノデスカ

ラヌノデ、嫡出子ナリ或ハ其他ニ付テハ認知ト云フコトハ起ラナイ筈デアル、是ハ尤ノコ
トテ御意見ノ通アリマス、然ルニ戸籍ニ私生子ト云フ身分ヲ記載スル必要アリヤ否
ヤ、戸籍ニ私生子ト記載シナクテモ、父ノ認メザル子ハ即チ私生子アル、一旦私生子
ト云フコトヲ戸籍ニ記載致シマス、之ガ私生子トナルカラ、今度戸籍面ノ私生子ハ特ニ
認知ノ届出ヲシナケレバ庶子トナラヌト云フコトニナル、然ルニ未ダ出生届ヲ致サザル場
合、私生子デアルガ、未ダ出生届ノナイ場合ニ、一旦私生子ト云フコトヲ戸籍吏が記載

致シテ、更ニ之ヲ認知ノ手續ニ依テ再ヒ庶子ト改メル必要ハナリ、御承知ノ通り認知出生ノ始メニ溯テ效力ヲ生ズル、即チ認知サレタ私生子ハ出生ノ時カラ庶子デアル、是ハ民法ノ立テ方デアリマシテ、一タビ認知セラレタルモノハ初カラ庶子デ、私生子ト云フヤウナコトハナイモノトナルノデアリマスカラ、ソコデ庶子出生届ヲ出スコトヲ許シマシテ、其庶子出生届ハ即チ認知ノ效力ヲ有スルモノデアルト云フコトヲ戸籍法ノ中ニ今度明カニ規定ヲ致シマシタ、スルト私生子ト云フヤウナ身分ハ特ニ戸籍ニ現ハサズシテ、初カラ庶子ト云フコトニナッテ戸籍ニ記載サレル、スルト子ノ爲ニモ幸福デアリマスシ、私生子ト云フ名前ヲ重複ニ書カズニ濟ム、今マテ認知ノ届出ガナケレバ庶子出生届ト云フコトハ許サヌ、私生子ト記載スル外仕方ガナイカラ總ニ私生子ト云フモノハ認知セラレテ庶子トナッタガ出生届ニ依テ認知ノ結果庶子ト云フコトニナル、サウ云フコトテ現行法ノ一段ノ手續ヲ略シテ一段ニシヤウ、ソレガ民法ノ認知ノ届同ノ效力ヲ有スルト云フコトニ致シテ、認知届ハ要ラヌ、出生届ニ依テ直ニ私生子ト云フモノハ認知セラレテ庶子トナッタト云フコトガ一遍ニ現ハレルノデ、民法ノ趣意トハ少シモ抵觸スルトコロハナイト思ヒマス○大口喜六君　スルトモウ一應伺ヒマス、私ハ今度ノ御改正ノ方が便利ト思ヒマスガ、民法ノ關係上疑問ガアリマスカラ伺フノデアリマス、スルト斯ウ云フ疑問ガ起ル、民法三百二條ニ依テ母ノ胎内ニアル子ヲ父が認知スルト云フトキハ母ノ同意ヲ得ナケレバナラヌト書イテアル、トコロガ今度ノ改正ニ出マシタコロノ法案ニ依リマスト、父ガ庶子出生ノ届出ヲ出ストキハ、其届ハ認知届、效力ヲ有スル、サウナルト母ノ承諾ト云フモノハ無クテモ宜ヤウニ見エル、戸籍法ガ民法ヲ打破ルヤウニ見エル、其點ハ如何デアリマスカ○司法省參事官(山内確三郎君)此胎兒認知ノ關係ハ、是ハ現行法ト雖モ、ソレカラ此案ト雖モ、全ク相違ハナイノデ、又出生前三認知スルノヲ胎兒認知ト云フコトハ勿論デアリマスカラ、其場合ニハ胎兒認知ノ外致方ナシ、胎兒ヲ認知スルトキニハ、御承知ノ通り母ノ同意ヲ要スル、同意ノ書面ヲ作ツテ胎兒認知ノ届出ヲスルコトハ現行法モ戸籍法モ變リハナイノデアリマス、之ニ反シテ胎兒ヲ認知セズシテ產マレタ後ニ出生届ヲ爲ストキハ、唯一遍ニ認知が出來ルノデアリマスカラ、其關係ハヤハリ民法ノ趣意ト此戸籍法ノ趣意トハ相違ハナイノデアリマス○大口喜六君　唯今ノテ胎兒認知ノ母ノ届出ノ點ハ分リマシタ、サウスルト今マデノ解釋ヨリハ廣ク解釋セラレテ、民法ノ解釋ガ變シテ來タコトニナルノデスカ○司法省參事官(山内確三郎君)　現行ノ民法ノ主義トハ變ラナイノデ、司法省ノ先例ノ——實例ノ場合ガアリマスカラソレヲ御話致シマスガ、戸籍法ヲ正面カラ解釋スルト、私生兒出生ノ届出ヲ爲シテ、而シテ後ニ認知届出ガナケレバナラヌコトニ民法ハナツテ居リマス、併ナガラソレハ不便利トシテ戸籍法ノ解釋ヲ少シク廣ク解釋致シマシテ、

實際ノ取扱ハ此案ノ通り取扱ヲシテ居リマス、併ナガラレデハ戸籍法ノ條文ノ正解トナリマセヌカラ、戸籍法案ハ今日ノ先例ヲ認メテ茲ニ規定ヲシタノデアリマス、併ナガラ民法ノ關係ノ解釋ハ變ラナイノデ、民法ハ免ニ角認知届出ガアレバ庶子トナル、認知ハ届出ニ依ルノガ民法ノ規定テ動カナイノテアリマス、ソコデ今日民法ニ據ア私生兒ヲ認知スル、其認知モ正式ノ認知届出ニ非ラズシテ、庶子ノ出生届出ニ依テ認知スルコトニナリマスカラ、此出生届出ガ認知届出アルト云フコトヲ採ダノデ、民法ノ解釋トハ變リハナイ次第アリマス

○野村嘉六君 モウ一ツ大體ノコトニ付テ質問致シマスガ、此父ガ財産管理權ヲ失タコダトキニ母ガ管理權ヲ行使スルノハ民法ノ規定デアリマスガ、父ガ財產管理權ヲ失ウタコトヲ戸籍法ニ記載スルコトハ法律論トシテハ穩當ヲ缺クト思ヒマス、併ナガラ先ギニ申マシタ通リ、身分登記モ戸籍モ實用ニ於テ一緒デアルカラト言フ便利主義カラ言ツタナラバ、此點モ戸籍法ニ記載シタラドウ云フモノデアリマセウカ、又此記載ガアルデアリマセウカ、ドウデスカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 其點モ百七條ニ規定シテ居リマス、即チ母ガ親權行使者アルト云フコトヲ戸籍簿ニ記載スルコトニナルノデアリマス

○島田俊雄君 條文ノ付テノ質問ハ後ニシタイト思フノデアリマス、ソレデ私ハソレヲ略シテ成ルベクセスヤウニシテ居リマスガ、モウ一ツ大體ニ付テノ御答辯ヲ得マシテ、ソレカラ議事ノコトニ付テ希望ヲ述べタイト思ヒマス、ヤハリ身分登記簿ノコトニ付テモウ一ツ聽イテ置キタイト思ヒマス、戸籍簿ノコトハ家ノ制度カラ來ルコトハ論ヲ俟タナインデアリマスガ、家ノ制度モ民法ノ制定當時ニ於テ豫想セラレタヤウニ往々居ラナイノデ、經濟上即チ生活ノ關係ハノ方カラ民法ノ想像シテ居ル——理想トシテ居ルヤウナ家ノ制度が漸次崩レテ變化シテ居ルコトハ御認メニナシテ居ルコト思フ、サウ云フ風度家ノ制度が變化シテ参リマスレバ、戸籍制度ニモ影響ヲ及ボスコトハ勿論デアリマスガ、茲ニシテ御考ヲ願ヒ又御伺シテ置キタイコトハ、元來身分ノ關係ト云フモノハ申スマデモナク個人のモノデアル、戸籍ハ家族制度カラ來ル家族的ノモノデアル、ソコデ我國デ家ノ制度ヲ採用シテ居レバ戸籍簿ノ制度が出來ルノハ當然デアリマス、ソレト同時ニ一方ノ身分關係ト云フ個人的ノ關係ハ遺ルノデアリマスカラ、此改正法案ハ現行法ガ身上關係トノコトニ付テモ十分ニ御考ニナシテ居ルト思ヒマスガ、將來身分が個人關係カラ生ジテ來點ハ戸籍簿ハ害ガアツテ益ガナイト云フ御論ハ能ク分リマシタシ、又私モ其點ハ不同意ハアリマセヌガ、將來戸籍簿ニ依テ兩方兼帶テヤラセル制度ヲ設ケテ之ヲヤッテ見テ、ヤハリ身分關係ト云フモノガ——獨立ノモノガ一ツアルカラ、此關係カラ將來現行法ニアル身分登記ノ制度ニ多少變化ヲシタヤウナ新シイ制度ヲ設ケテ、一種ノ身分登記簿ヲ設ケナケレバナラヌ必要が起リハシマイカ、現行法ハ一夜作リト云フ御話モアリマスガ、ソレハソレデ満足スルト致シマシテモ、此改正法ハ隨分練ラレタノデアリマスカラ、サウ云フ將來ノコトニ付テモ十分ニ御考ニナシテ居ルト思ヒマスガ、將來身分が個人關係カラ生ジテ來ル必要上、更ニ身分登記ノ制度ニ類シタモノヲ起スヤウナコトヲ御考ニナシテ居リマセヌカ、若シサウ云フコトモ御研究ニナシテ居リマスナラソレヲ伺ヒタノデアリマス、ソレガ私ノ大體ニ付テノ質問デアリマス、ソレカラ議事ノ進行ニ付テノ希望トシテ附加ヘテ置キマス

ガ、是ハ諸君ニ御説リスルノデアリマスガ、此法案ハ大體ノ質問ハ續ケテヤレバ十分シテ往キタイト思フノデアリマスガ、各箇條ニ付イテノ大口君野村君杯ノ御質問ハ、委員ニ於テ参考書ヲ讀ミ、又條文ヲ讀ンダ上デ、新舊對照シテ研究シテ見タラ、條文ヲ指摘スル必要ハナリ、ソレデ大體ノ質問ガ終リマスレバ、三日カ一日カ五日カ休ミヲ置イテ、委員ニ於テモ能ク讀ンデ、今度集テ新設改正ノ點ニ付テ、簡條的ニ概略ノ説明ヲ聽イテ、吾々ノ質問ヲ進メテソレカラ決議ヲスルト云フヤウナ風ニシテヤラスト都合ガ惡イ、前後ニナシテ都合ガ惡イカト思フ、是ハドウデスカ

○委員長(長島鷺太郎君) ドウデスカ、此提案ハアナタノ御考ノ通り能ク讀ンデ、尙ホ一應大體ニ付テ一章毎ニ伺フコトニ……

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 御尤ノ御問デアリマシテ、成ル程名ハ戸籍法ト題シマシタガ、今度戸籍簿ニ記入スルコトハ家ノ關係ト個人ト個人トノ關係モ登録サレルコトニナルノデアリマス、ソコデ我國ノ制度ハ家族制度ニ重キヲ置クカ、個人制度ニ重キヲ置クカト云フコトノ議論ニナルノデアリマスガ、現行民法ニ於テハ一面ハ家族制度ヲ用ヒ、一面ハ個人主義ヲ採用シテ居ルノデアリマスガ、今後ノ變遷ニ依リマシテ、或ハ昔ノ如クニ純然タル家族制度トナルカ、或ハ純然タル個人制度トナルカ、ソレニ依テハ此戸籍法ノ規定モ自ラ變遷シナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソコデ若シモ純然タル個人主義トナリマシテ、家族制度ト云フモノヲ廢スルト云フコトニナリマスルナラバ、戸籍ト云フモノハ、或ハ此戸籍法ノ中カラ除カナケレバナラヌコトニナリマセウケレドモ、今日ノ趨勢ニ於テハ、私一己ノ考ヲ以テ申シマスレバ、寧ロ反對ニ個人主義ヲモウ少シ減少シテ、家族主義ノ方ヲモウ少シ發達セシムルト云フヤウナコトニスル方ガ穩當デハナカラウカト云フ私見デアリマス、サウ云フコトデアリトセバ、斯ル改正ニ致シマシタコトニ不都合ナトコロハナカラウト思ヒマス、又或ハ其反對ニ純然タル家族主義ト云フコトニナリマシタナラバ、時ニ依レバ此戸籍法ニモ改正ヲ加ヘナケレバナラヌ、必要ニナルデアラウト思ヒマス、現行民法ヲ基礎トシテ論ズレバ斯様ナリマスガ、戸籍法ト申シテモ、戸籍簿ノ中ニ記入スルコトハ身分關係ニ記入シテ併セテ家ト云フコトノ關係ヲ組織致シマス各個人デアリマスカラ、各個人ノ事柄ヲ戸籍簿ニ記入スルノモ敢テ不當デハナイカト思ヒマス

○委員長(長崎鷺太郎君) 時間が過ギテ居リマスカラ、ドウデス、大體ノ質問ハ一度ヤメテ

○光森德治君 ソレデ是ハ成程島田君ノ御意見ニ依テ、歸シテ調ヘルノハ誠ニ結構ノヤウデアル、奮闘努力デアルガ、小生ノ如キハ其様ナモノヲ學校ノ教科ノヤウニ調ベルコトハ不能デアル故ニ、此處ニ合點ノ行カヌ處ハ間ヒ付ケル、サウシテ政府委員モ城壁ヲ取シテ——城壁ヲ撤回シテシマシテ、サウシテチヤントドン底カラ腹ニ入ルヤウニスルが宜イト思ヒマス、獨逸トカ佛蘭西トカ西洋ノコトヲ言ハレテハ困ル、ソレダケラ學問トシテ居レバ宜シイガ、吾々ハ大責任ヲ持テ居ルカラ、ソシナコトハ出來ヌ、故ニ各自ニ調ベルヨ

リハ、政府委員ニ合點ノ行カストコロハ問フテ——問ヒ付ケテ腹ニ入ッタラ、其以上デ改正スベキモノハ其點ハ政府委員ニ改正シテ貰ッテモ宜シ

○委員長（長島俊太郎君） チヨット御説リ致シマスガ、島田君ノ提案ノ大體ノ質問モ直キニ濟ムト云フ考テ、濟シダラ各條ニ付テ質問モアラウト思ヒマスカラ、各章ニ就ト思ヒマス

○光森徳治君

大體ガ分ラヌノデアリマス

○加瀬禱逸君 私ハ他ノ委員會ニ參ツテ居リマシタノデ、或ハ他ノ諸君カラ御尋ノアツタ事項カモ知レマセヌガ、確メテ置キタイ、聞クトコロニ依リマスト臺灣ニ於テハ戸籍制度ノ設ガナク、巡查ノ戸籍調ニ依ツテ其在留人ノ狀態ヲ知リ得ルニ止ツテ居ル、從テ内地ノ人が臺灣人ト結婚ラスルト云フ場合ニ於キマシテハ、事實上ノ結婚ラシタノダケデアツテ、法律上ノ夫婦トナルコトハ出來ヌ、即チ戸籍ノ設ナキガ故ニ非常ニ不便ヲ感ジテ居ルト云フコトヲ聞イテ居ル、是等ニ對シテハ果シテ左様ナコトガナイトスレバ、ヤハリ臺灣人ト日本人トノ結婚シタ場合ニ於テモ、是等ノ戸籍ノ手續ヲナサルヤウナ此方法ハ御設ケニナル御考ハナイノデアリマスルカ

○政府委員（法學博士小山溫君） 臺灣ノ事ニ付テハ能ク承知致シマセヌガ、臺灣デモ内地ノ戸籍法が改正ニナルコトヲ聞イテ居テ、其材料ニ依ツテ臺灣ニモ戸籍法ノヤウナモノヲ拵ヘタイト云フコトニナシテ居リマス

○加瀬禱逸君 近ク拵ヘマスカ

○政府委員（法學博士小山溫君） ソレハ向フノコトニアリマスカラ私ニハ……

○島田俊雄君 唯今私ハ——先刻カラ繼續シテ問フテ居ルノデアリマスガ、身分登記ノコトニ付テ最後ニ御問シタコトニ付テノ御答辯ニ依ツテ、モウ一ツ申上ゲテ置クト云フカ御問シテ置クト云フカ、一ツノ事柄ガアル、ソレハ民法制定ノ當時ニ出來タ現行ノ戸籍法ニ於テサヘモ、身分登記ト云フモノヲ別ナ一ツノ制度トシテ身分登記簿ヲ置カネバナラヌト云フコトヲ認メタ位デアル、其後社會ノ變遷ノ事情ヲ見ルト、民法制定當時ニ豫想シテ居ツタ家ノ制度ハ民法ノ豫想シテ居ツタヤウニ行カナイデ、餘程民法ノ基礎トシテ居ルトコロトハ違ツタコトが出來テ居ルト云フコトハ御承知デアラウト思フ、將來御希望トシテハ家ノ制度ニモット重キヲ置キタイト云フコトハ御希望デアラウト思ヒマスガ、社會ノ經濟狀態、實際ノ發達ノ上カラ、ドウシテモ民法ノ豫想シテ居ル家ノ制度ハ崩レテ、個人的ノ方ニ重キヲ置クヤウニ自然ニ經濟關係カラナルデアラウト思ヒマス、民法制定當時ニ於テ身分登記ヲ必要トシテ居ルノニ、今日サウ云フ御希望ガアツテモ、其御希望ノタメニ之ヲ收縮シテ、身分登記ノ制度ヲ戸籍簿ノ中ニ込メルト、ヤハリ是カラ十年カ十四五年經タナイ中ニ又身分登記ノ制度ヲ置カネバナラヌト云フコトニナリ、改正案が出テ來ハセヌカト思フ、ソレハ立法ノ制度ノ上ニ於テ一ノ根本的ノ弊害デハナイカト思フ、所謂朝令暮改ト云フコトハ極端カモ知レマセヌガ、サウ云フ風ニシテ少シヤシテ見テ、巧ク行カナケレバ又變ヘル、變ヘテヤツティケナケレバ又後戻リヲシテヤルト云フヤウニ始終ヤツテ居ルト云フコトガ、法律制定ノ上ニ於テ一般ニ通シテ見ル弊害デハナイカト思フ、私共ノ見解ト政府委員ノ見ラル、トコロ

ハ達フカモ知レマセヌガ、私共ハ家ノ制度ハ漸次崩レテ行キ居ルト思ヒマス、スルト崩レナ以前ニ於テサヘモ必要トシテ設ケテ居ツタ身分登記ノ制度ヲ此處ニ廢スルト、遠カラズシテ之ヲ又制定スル、其時ニ私ハ居ルカ居ラヌカ知ラヌガ、斯ウ云フモノガ又出テ來ハセヌカト思フノデアル、其點ニ付テハ承ツタノデアリマスガ——家ノ制度ニモット重キハ置イテ、家族制度ヲモット嚴重ニヤルヤウニシタイト云フ御希望ハ承リマタシガ、社會ノ進歩ノ實際ハ御希望トハ反スルヤウニナルト思ヒマス、身分登記制度ニ似タヤウナ制度ガ將來起リハセヌカト思フノデアリマス、現行法ヲ御改正ニナルニ相當ノ理由ガアレバ異存ハアリマセ

ヌガ、其改正ト同シ反対ノ理由デ、他日改正スルノ必要ガ起リハセヌカト云フコトヲ虞レル、其點ニ於テ私ハ若シ之ヲ理想的ニ現行法ノ身分登記ノ制度ヲ全廢セズシテ、爰ニ身分登記制度ノ弊害ダケヲ矯メル方法ガアレバ一番宜イト思ヒマスガ、其點ニ於テハ御提案ニナシテ居ラヌシ、ソレ程深ク御研究ニナシテ居リマセヌカラ、ソレニ付テハ何等ノ意見ハナイガ、サウ云フヤウナ過去ノ實際カラ考ヘテサウ云フコトヲ御認メニナル御研究ヲ承リタイト云フ質問デアリマス、ソレニ付テ御説明ガアレバ更ニ承リタシ、最前ノ御答辯ダケデ其以上御説明ガナイト云フナラバソレデ宜イノデアリマスガ、此委員會ニ列席サレタ上ハ明言シテ置ク、必ズ將來今ノヤウナ御見込テアルト身分登記ニ付キモウ一遍改正スル時機ガ來ハセヌカト云フコトヲ虞レル、ソレニ付テ若シ當局ノ御意見ガアレバ承リタイ、ナケレバモウ宜イ

○政府委員（法學博士小山溫君） 島田サンノハ詰リ現行ノ親族法ヲ改正スルヤウナ必要ガ起リハセヌカト云フコトニ私ハ解釋致シマスノゴザイマス、現行ノ親族法ニアレバ、此戸籍法デ此案トシテ戸籍法デ差支ナイト云フ意見デアリマスガ、親族法が個人主義ニ依ツテ立テラレルトキニナリマスレバ、此殆シド附屬法ゴザイマス、戸籍法モ改正セネバナラヌヤウニナリマス

○島田俊雄君 サウスルト、現行ノ民法ノ親族篇ト云フモノガ改メラレヌ以上ハ……

○政府委員（法學博士小山溫君） 是デ差支ナイ積リアリマス

○島田俊雄君 是テ身分登記ヲ復活スルヤウナコトハ此先ナイト云フノデアリマスカ

ナラヌヤウニナリマス

○島田俊雄君 戸籍ニハ犯罪ノコトガアリマシタガ、ソレハ戸籍法が出來テカラアレガ取

除ケニナシテ居ル、前ニハ一族ニ犯罪人ガアルト戸籍ヲ汚ス、戸籍が汚レル、ソレデ皆犯

罪ナドスレバ戸籍が汚レルトスウ云フノデ、大變ソレハ風教ノ一ツニナシテ居ツタ、所ガ今ノヤウナ身分登記ト云フモノが出來タ、彼是ノ關係カラカドウカ知ラヌガ、取除ケニナシタ、

是ハ元ニ復舊シテ戸籍簿ヘソレ記入スルト云フコトニナルト、利害ノ問題ハアリマセウケ

レドモ、兎ニ角戸籍簿ニ於テサウ云フコトヲ記入スルト何カ差支デモ生ズルカ、若クハ手數等ノ關係上カラソレハ甚ダ宜クナイト云フコトデモアルカ、戸籍ニ之ヲ記入スルト云フコ

トニ付テ、政府委員ノ御意見ハドンナモノデス

○政府委員（法學博士小山溫君） 此刑事政策ノ上カラ致シマシテ、何方ラガ便利ダト申シマスト、戸籍ニ犯罪が記載シテアリマスレバ甚ダ便利デアレドモ、又其戸籍ニ載ッテ居ル人ノ方カラ申シマスルト云フ甚ダ因ツタ話アリマスカラ、一家族ノ中一人犯罪者ガアルト、所謂戸籍が汚レル、昔ノ罪三族ニ及ブト云フ思想ナラ宜シウゴザイマスガ、罪

ハ其身ニ止マルト致シマスト、戸籍ニ記載スルト云フコトハ甚ダ好マシカラザルコトデハナ

イカ、此意味カラ削ラレタ

○光森德治君 身分ノ其人ノ調べヲスルニ、近所隣リデ聞合ハス、戸籍ニ依レバ直ゾ
分カク、結婚ヲシタコロガ後トテ前科ガアッタト云フコトデ、後トテ驚クコトガ往々アル

○荒川五郎君 施行規則ハ細則ハ既ニ草案が出來テ居リマセウカラ、ソレヲ参考トシ
テ此委員會ニ御廻ハシニナランコトヲ委員長ヨリ請求アランコトヲ……

○政府委員（法學博士小山溫君） 未ダ出來マセヌ

○委員長（長島鷲太郎君） 未ダ出來ヌサウデス——ソレデハ明日一日休ンデ、明後
日二十八日開クコトニ致シマス

午後零時二十八分散會